

和歌山県に未曾有の豪雨禍

寫真特報



發行所 和歌山県小松原一丁目
和歌山県企鵝広報部
編集印刷 中村三郎
印刷所 和歌山県印刷所
定価 一部 2円50銭

号外

豪雨猛威をふるう

測候所開設以来の記録

被害状況第一報

被害甚大

六月二十三日全県を襲ったダイナ台風による甚大な被害を蒙った生々しい災禍の後二句を略して、またまた七月十日午後八時頃から降り出した雨は、深更まで二四九・二センチ、十一日朝まで更に二五・三センチを加え、最大記録雨量に四〇・七センチという、猛烈な豪雨となり明治三十六年七月八日の記録(三三・四センチ)を上回り各河川は増水、刻る所、惨状眼を覆わしめ未曾有の豪雨禍をもたらした。県においては、十一日午前二時各地方事務所、市役所に急報、応急措置をとることも午前九時全県に災害救助法を適用し、県内に災害対策本部を設置し、緊急水防を指令、非常態勢に入り応急救助を開始、時をさす県下各市町村に対して食糧の応急配給、被災者の救助等に万全をつくした。災害の状況については全機能をあげて詳細に調査するとともに対策を講じている。

① 災害地を視察する小野知事

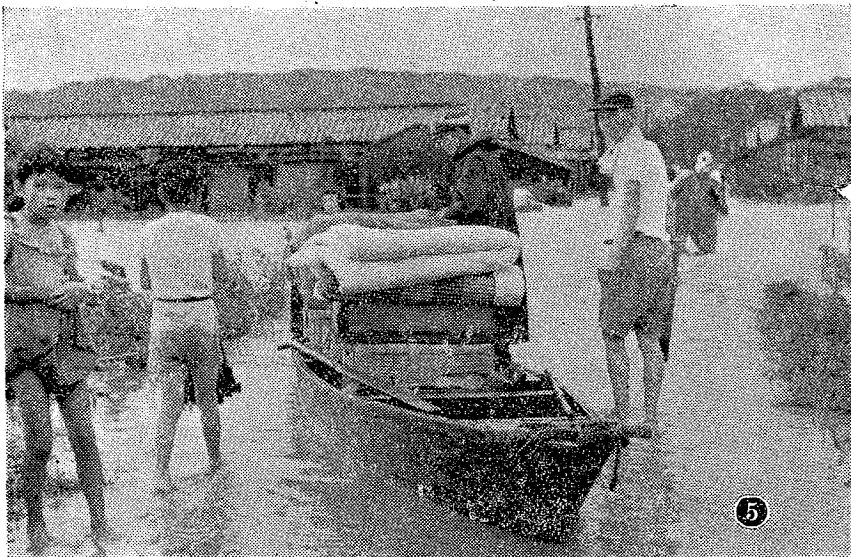
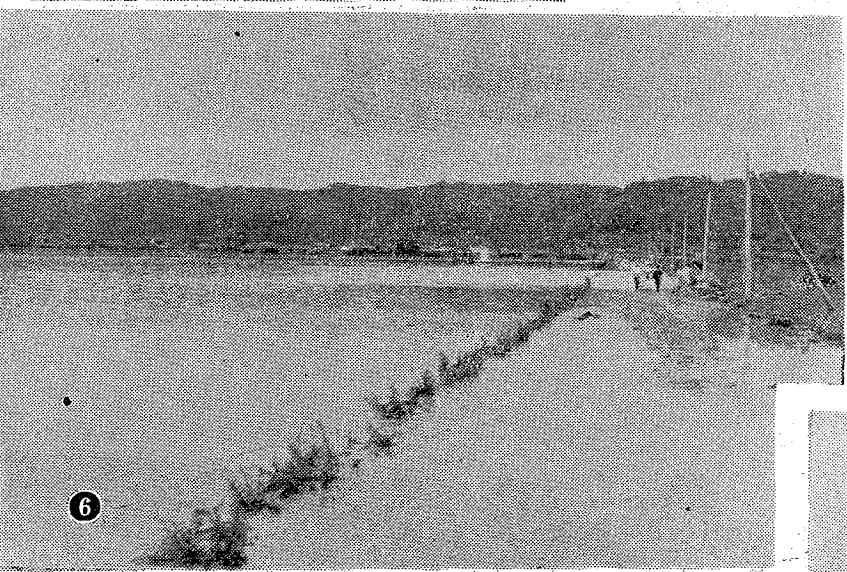
② 市内中の島阪和線ガード付近



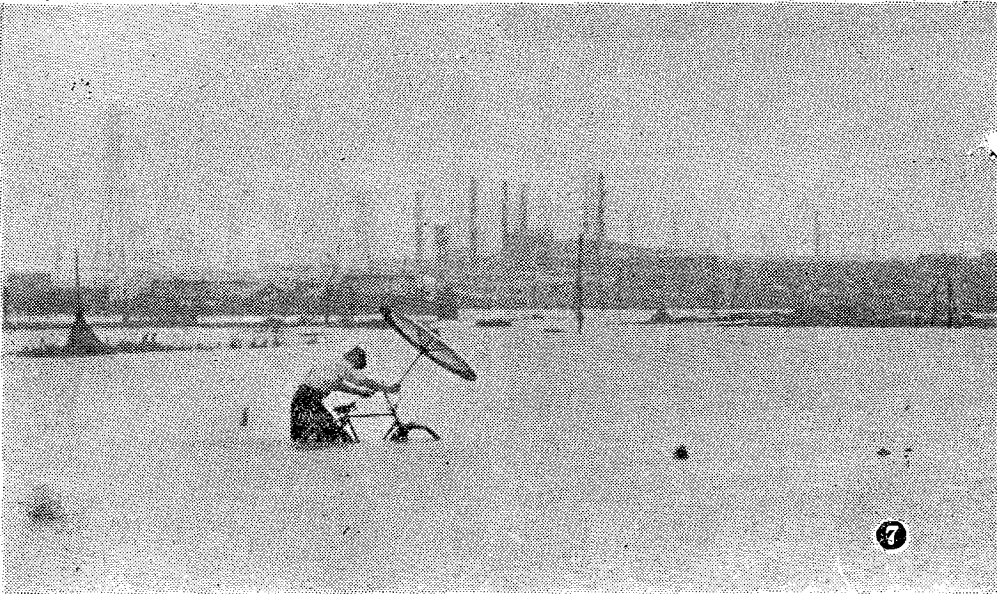
③ 臍まで漬つてフトン類の搬出
④ 先ず食糧と飯ビツ抱えて

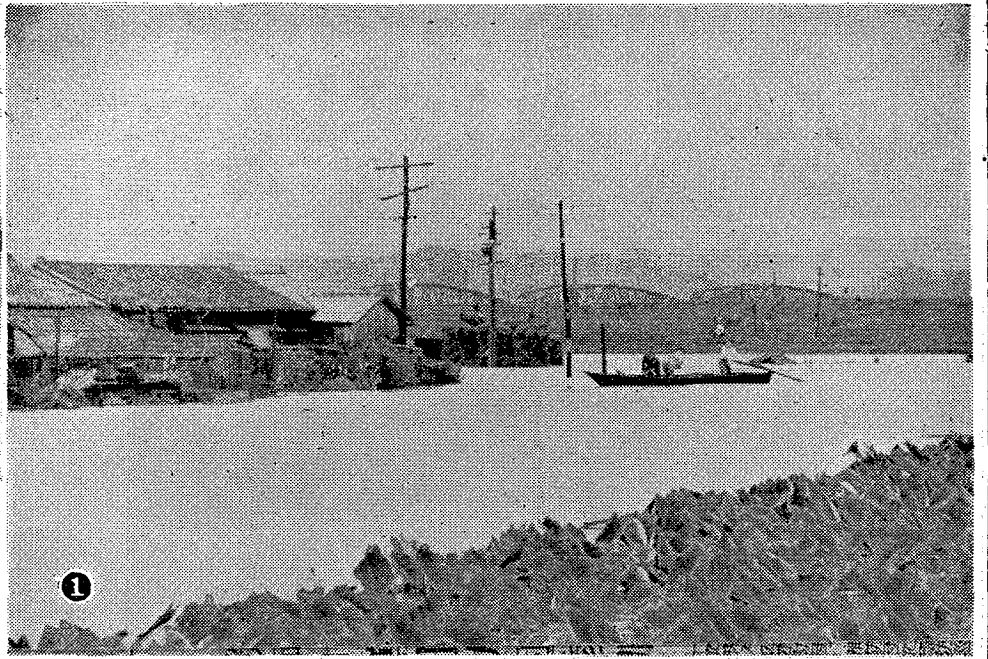
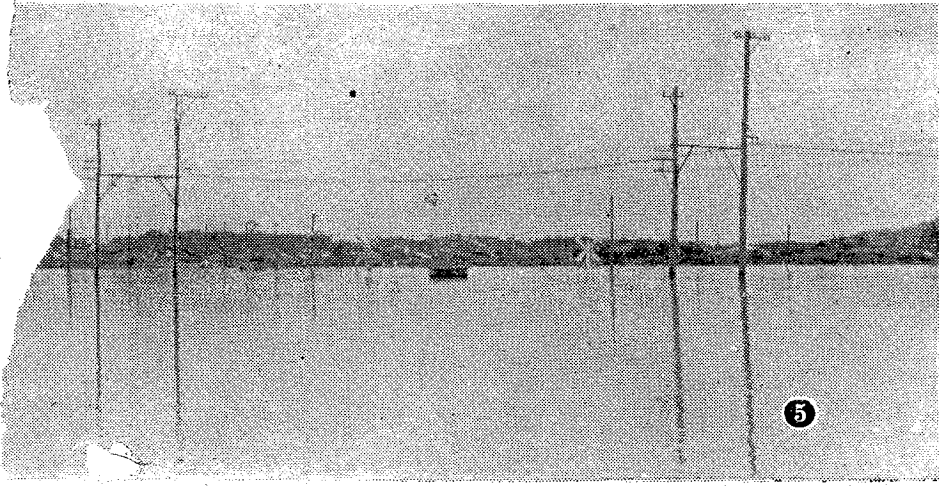


⑥ 道路も田圃も一面の泥沼
⑦ 足さぐりで家路へ
⑧ 水びたしの住宅



⑤ 和歌浦から救援のノリ舟で家財の搬出





被害額

被害総額 五、二八、〇八二、五〇〇円

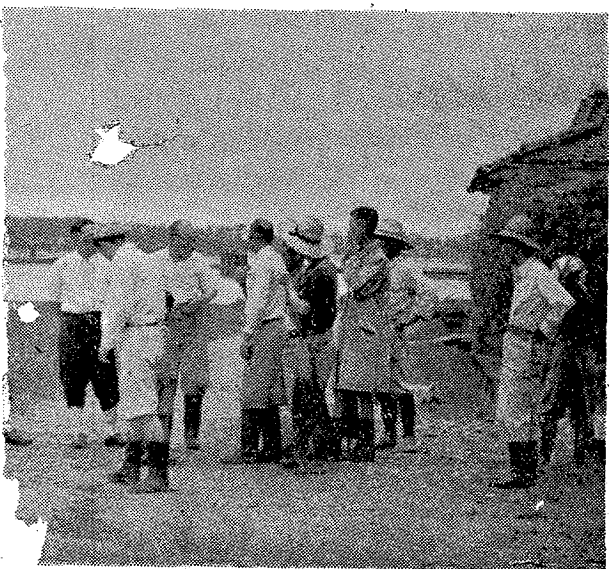
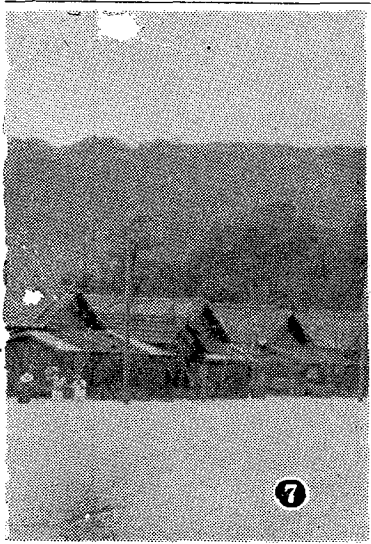
浸水のひどかつた和歌山市河内地区は、未だ湖水の状況である。全県下に亘つて被害調査を行っているが、七月十二日午後五時に判明した被害額は次の通り

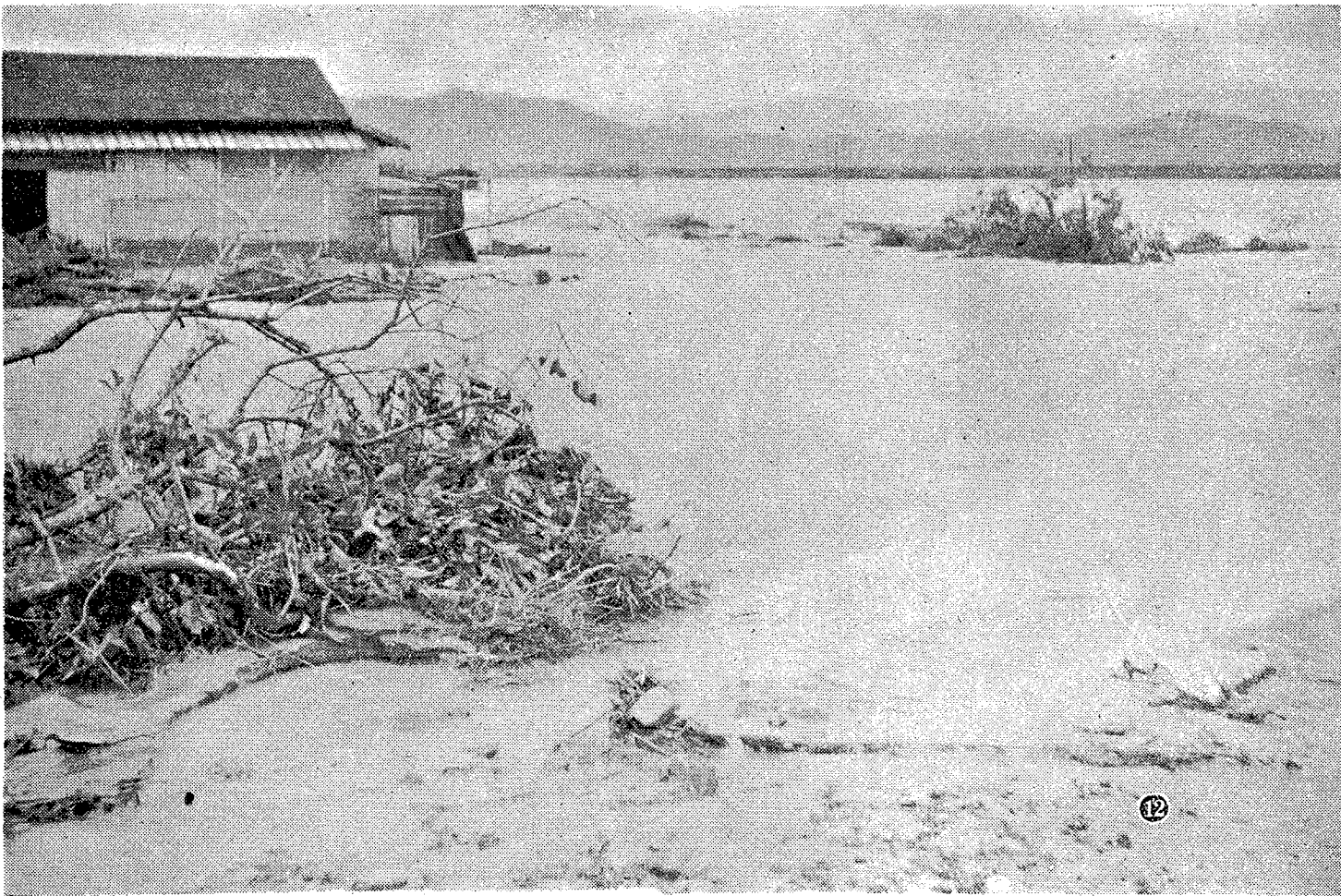
耕地 二、六八四、〇〇〇円
二耕地関係 一、〇〇〇、〇〇〇円
作物 一、〇〇〇、〇〇〇円
四農産関係 一、〇〇〇、〇〇〇円

林道「金ヶ谷」 五、〇〇〇、〇〇〇円
苗圃「四」 五、〇〇〇、〇〇〇円
木材及び製材「五」 三、〇〇〇、〇〇〇円
木炭関係「炭」 四、〇〇〇、〇〇〇円



- ① 臨時渡船は大もて泥海に道路をさぐりつゝ前進する救援トラック
- ② タライで家財の運び出し
- ③ 病人を背に避難（狐島地区）
- ④ レールロードの標識も頭だけ残して水没（加太線）
- ⑤ 炊き出しのパンは自転車で腰まで漬つて避難する住民
- ⑥ 罹災者を見舞う小野知事、貴志副議長一行
- ⑦ 水に浮ぶ加太線島橋駅



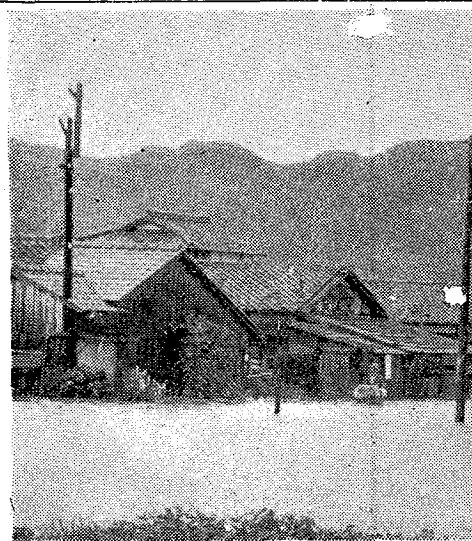


公共施設	三三、八〇米
二土木関係	五、〇〇〇〇〇〇
河川	三、〇〇〇〇〇〇
砂防	五、〇〇〇〇〇〇
道路	二、〇〇〇〇〇〇
橋梁	二、〇〇〇〇〇〇
市町村工事	一、〇〇〇〇〇〇
三林業関係	三、〇〇〇〇〇〇
治山並びに保安林関係	三、〇〇〇〇〇〇
三ヶ所	三、〇〇〇〇〇〇
畜産	三、〇〇〇〇〇〇
養蚕	四、〇〇〇〇〇〇
肥料	三、〇〇〇〇〇〇
農業倉庫	二、〇〇〇〇〇〇
食糧関係	一、〇〇〇〇〇〇
五商工関係	一、〇〇〇〇〇〇
工場	三、〇〇〇〇〇〇
商業	三、〇〇〇〇〇〇



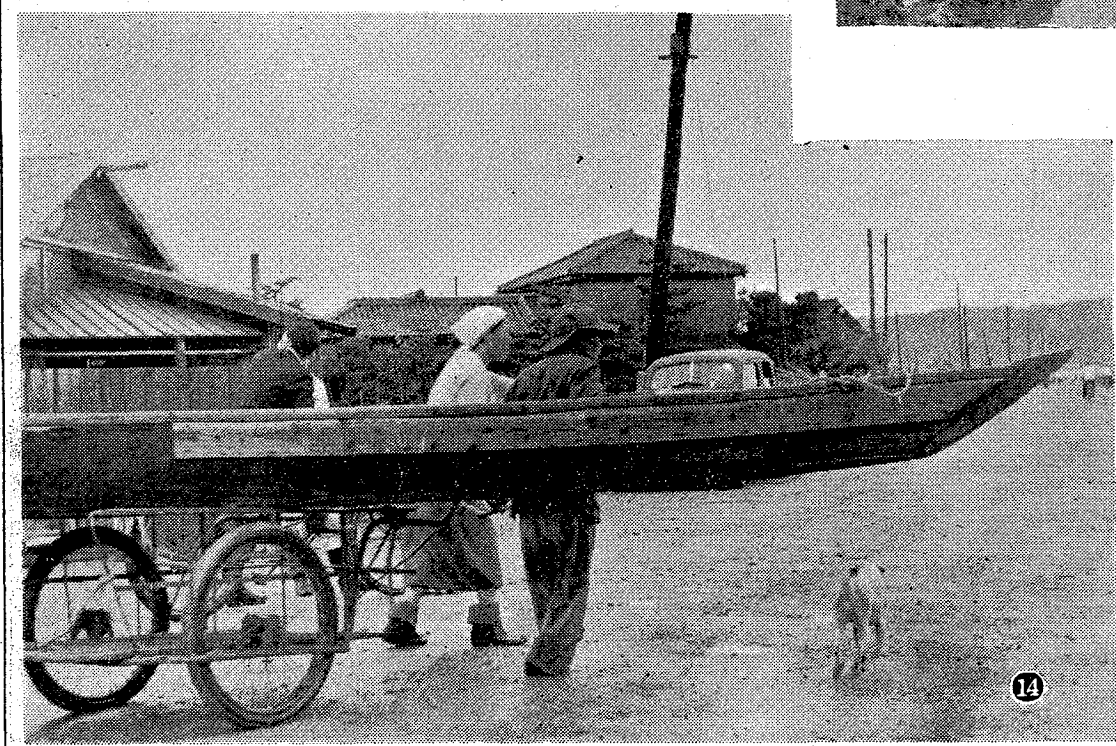
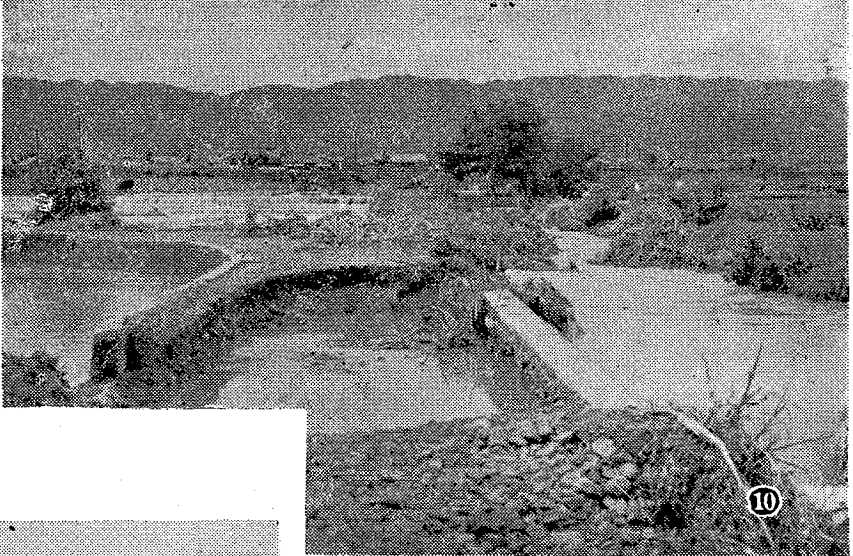
人的被害

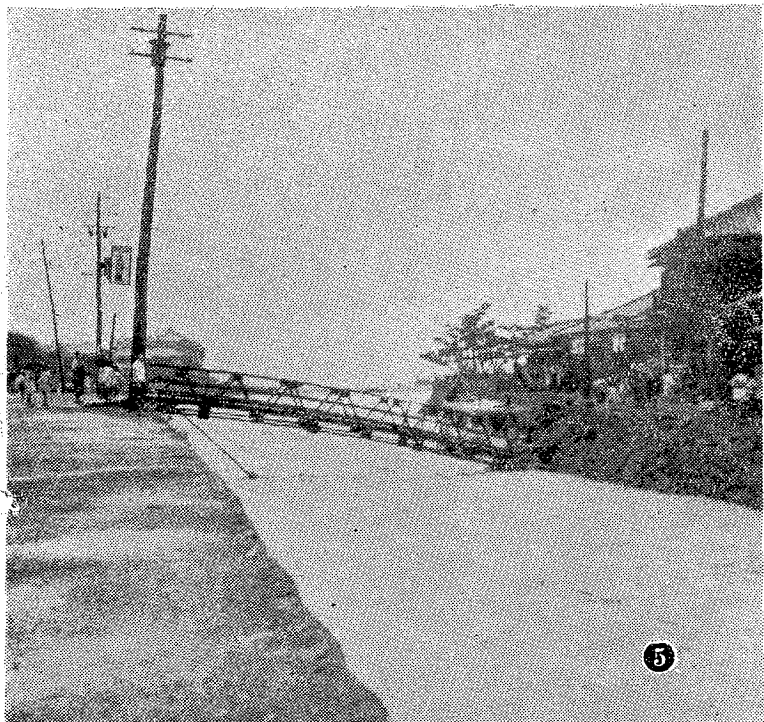
六開拓関係	二〇、〇〇〇〇〇〇
耕地	一、〇〇〇〇〇〇
作物	二、〇〇〇〇〇〇
公共施設	八、〇〇〇〇〇〇
七都市計画関係	五ヶ所
八公共建物関係その他	一、〇〇〇〇〇〇
学校	三、〇〇〇〇〇〇
県有建物その他	三、〇〇〇〇〇〇
市町村有建物その他	三、〇〇〇〇〇〇
公営住宅	三、〇〇〇〇〇〇
九一般住宅	二、〇〇〇〇〇〇
十漁船その他	二、〇〇〇〇〇〇
合計	五、〇〇〇〇〇〇



罹災者総数	十七万四千人
七月十二日午後五時迄に判明した人的被害は次の通り	
一死者及び罹災家屋	一四八
死者	一四八
行方不明	二八
負傷者	二八八
計	三〇四
二罹災家屋	
全壊	八五
流失	六七
半壊	二八〇
浸水	四、五九三
(内床上浸水)	一、二五
計	四二、〇二五

- ⑩ 堤防決潰に類す (那賀郡)
- ⑪ 道路も田圃も一面に (市内加納町)
- ⑫ 河川決潰で耕地冠水 (海草郡)
- ⑬ 道路の決潰 (那賀郡)
- ⑭ 救援の小舟をリヤーカーに乗せて





③ ⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ①
堤防決壊に備えて(那賀郡)
田も畑も一面の泥海
泥水に漬つた鳥籠住宅
濁流街を洗う(加太町)
流失寸前の橋(加太町)
到る処に活躍する小舟
流水に押し流された民家
一面の冠水田(八軒家附近)

